

関連イベント 場所：神奈川県民ホールギャラリー展示室 参加費：無料(但し展覧会の入場券が必要です)

アーティスト × キュレーター トークセッション

日時：12月15日(日) 13:00～14:00

本展参加アーティストと、キュレーターたちが作品やその制作について語り合います。

浜田純平(ダンサー)による即興パフォーマンス

日時：1月18日(土) ①14:00～ ②16:00～ (各回30分予定)

9歳からヒップホップ、ジャズ、コンテンポラリーダンス等を学び、多数公演に出演する浜田純平。本展では展示会場を舞台に各アーティストの作品とのコラボレーションを視野に入れながら、即興のパフォーマンスを行います。



photo:加藤 浦

浜田純平 HAMADA Junpei

OrganWorks／LIFULL ALT-RHYTHM所属。1991年北海道生まれ。東京都在住。北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科情報通信フォニクス研究室卒業。OrganWorks作品のほか、『ウェンデイ&ピーターパン』『浜辺のアインシュタイン』等、演劇・オペラの舞台にも多数出演。また、世界初のプロダンスリーグである『D.LEAGUE』にLIFULL ALT-RHYTHMのメンバーとして参戦。

ドラマリーディング「銀河鉄道の夜」荒澤 守(俳優)×大田智美(アコーディオン)

日時：1月24日(金) ①14:00～ ②16:00～ (各回30分予定)

3月に眠りにつく県民ホールに寄せて、「銀河鉄道の夜」をモチーフにした朗読劇(脚本：近藤輝一)を、俳優の荒澤守とアコーディオンの大田智美が上演します。言語表現と合わせて奏でられるアコーディオンの響きが、展覧会の会場にどのような情感を創出するのか、ご期待ください。



荒澤 守 ARASAWA Mamoru

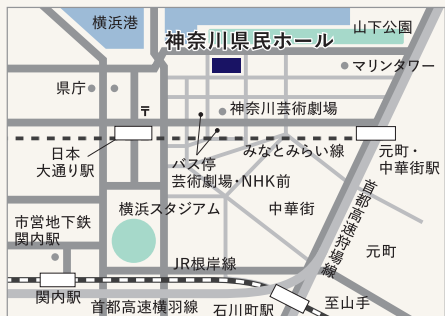
太田プロダクション所属。1995年埼玉県生まれ。東京都在住。京都芸術大学アートライティングコース在籍 2014年小劇場での演劇から活動開始。2022年より新宿梁山泊での花園神社特設紫テント公演を中心に活動をしている。2019年PARCO Produce『転校生』、2023年『失われた歴史を探して』、2024年『ジャガーの眼』など。



photo: Jumpei Tainaka

大田智美 OTA Tomomi

アコーディオン奏者。幼少期よりアコーディオンを始め、国立音楽大学附属音楽高等学校ピアノ科卒業後、渡独。2009年 Folkvank 音楽大学ソリストコースを満場一致の首席で卒業、ドイツ国家演奏家資格を取得。御喜美江氏に師事。また特待生としてウィーン私立音楽大学でも研鑽を積む。帰国後は、ソロや室内楽、オーケストラとの共演等クラシックや現代音楽を中心としながらもジャンルを超えた演奏活動を行い、アコーディオンの魅力と可能性を発信している。



神奈川県民ホール

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
Tel. 045-662-5901(代表) Fax. 045-641-3184
<http://www.kanagawa-kenminhall.com>

- みなとみらい線＝日本大通り駅から徒歩8分
元町・中華街駅から徒歩約12分
- JR＝関内駅または石川町駅から徒歩約15分
- 市営バス＝芸術劇場・NHK前下車 徒歩約2分
横浜駅東口バスターミナル2番のりば(所要時間約25分)
桜木町駅バスターミナル2番のりば(所要時間約10分)
- 県民ホール有料駐車場(84台)もご利用ください。

ご来場の皆様へ 会期・イベント等が変更となる可能性があります。最新情報はホームページをご覧ください。



神奈川県民ホールギャラリー 2024年度企画展

眠れよいい子よ

よい子の眠る／ところ

市川友章

ICHIKAWA Tomoaki

岩谷雪子

IWATANI Yukiko

多和田有希

TAWADA Yuki

中瀬由央

NAKASE Yukihisa

ひがれお

HIGA Leo

2024.12.15 SUN — 2025.1.25 SAT. 11:00—18:00

入場は開場30分前まで

会場 | 神奈川県民ホールギャラリー 休場：木曜日(12月19日、26日、1月9日、16日、23日)、年末年始12月28日(土)～1月4日(土) ※12月29日(日)は開場

料金 | 一般900円 学生・65歳以上500円 高校生以下無料 障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

主催 | 神奈川県民ホール[指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団] 協賛 | アクセンチュア芸術部 協力 | √K Contemporary、英一番館株式会社



特設webサイト



眠れよい子よ

よい子の眠る／ところ

この度、神奈川県民ホールは50年の歴史に幕を閉じ、一度眠りにつきます。「ドリーム／ランド」(2022年度)、「味／処」(2023年度)に続く、本展「眠れよい子よ よい子の眠る／ところ」では、「場」というコンセプトに「よい子」「眠る」というキーワードを加えて、5名のキュレーターによって選ばれた、各地域から気鋭の作家5名を紹介します。現代社会における人間のありかたとして

企画構成	中野 仁詞(キュレーター／公益財団法人神奈川芸術文化財団)
企画協力	大槻 晃実(芦屋市立美術博物館 学芸員)
	慶野 結香(キュレーター)
	畑井 恵(水戸芸術館現代美術センター 学芸員)
	中村 史子(大阪中之島美術館 主任学芸員)

「よい子」、「眠る」という概念を、現代美術そしてパフォーマンスの表現として展開するアーティストたち。その作品と対峙することで、鑑賞者は「よい」という概念が時にどのように変化し、また「眠る」ことがどのような意味を持つのか、よい社会やよい生活について考える契機となるでしょう。

主催	神奈川県民ホール[指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団]
協賛	アクセントチュア芸術部
協力	√K Contemporary、英一番館株式会社
お問合せ	神奈川県民ホール：TEL 045-662-5901(代表)

市川友章

ICHIKAWA Tomoaki

1977年千葉県生まれ、東京都在住。2004年東京藝術大学大学院油画技法材料研究室修了。怪人や動物をモチーフにした油彩画、及び木彫作品を制作。主な展示に、2022年「醜いアヒルは同胞の夢を見るのか」(maimai 2F ALTERNATIVE SPACE／岡山)、「アートフェアアジア福岡 2022」(√K Contemporary／福岡)、2018年「動物の木彫」(ピリケンギャラリー／東京)、2014年「怪人教室」(LAD gallery／愛知)など。2025年に√K Contemporaryにて個展開催予定。



《椅子取りゲーム(逆立ちマン)》2024



《横たわるアサリマン》2024



《怪人遠足(鎌倉大仏)》2024

岩谷雪子

IWATANI Yukiko

1958年北海道生まれ、高知県在住。武蔵野美術大学日本画科卒業。植物をこの地球上で我々と共存する最も重要な存在の一つと捉え、採集した植物で立体やインスタレーション等の作品を制作。主な展示に、2024年企画展「植物たちの声を聴くー岩谷雪子の世界ー」(練馬区立牧野記念庭園／東京)、個展「植物を採集するということ」(Breaker Project／大阪)、2021年・2019年「六甲ミーツアート」(兵庫)、2017年「Moving Plants」(Rønnebæksholm／デンマーク)、2015年「越後妻有アートトリエンナーレ」(新潟)など。



《ギンギン・英一番館のフォーク》2024

多和田有希

TAWADA Yuki

1978年静岡県生まれ、京都府在住。2011年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程修了。人間の精神的治癒のシステムをテーマに制作。自らの撮影した写真表面を削る、燃やすなどするユニークな手法は、芸術療法や民間信仰のリサーチをもとに展開している。主な展示に、2024年「I'M SO HAPPY YOU ARE HERE JAPANESE WOMEN PHOTOGRAPHERS FROM THE 1950S TO NOW」(アレル国際写真祭／フランス)、2023年「歌う船」(空蓮房／東京)、2022年「見るは触れる 日本の新進作家 vol.19」(東京都写真美術館／東京)など。



《I am in You》2016-2022 「見るは触れる 日本の新進作家 vol. 19」展示風景 提供：東京都写真美術館 撮影：井上佐由紀

中瀬由央

NAKASE Yukihisa

1971年兵庫県生まれ、同地在住。1993年大阪芸術大学美術学科卒業。闇夜では見えない蝙蝠を超音波可聴化受信機によって音で認識できたことで「見えないからいないのではなく、見えなくても存在する」ことに興味を持ち、様々な場所で「隠れた音」を探索、「音とそれを取りまく事象」をテーマに制作する。主な展示に、2013年「路上と観察をめぐる表現史 考現学以後」(広島市現代美術館／広島)、2010年「六本木クロッシング 2010展：芸術は可能か?」(森美術館／東京)、1995年「ジョン・ケージのローリーホーリーオーバーサーカス」(水戸芸術館／茨城)など。



《見えないからいないのではなくー 街路樹》2024



《数を歩く、音の軌跡》2017

ひがれお

HIGA Leo

1995年沖縄県生まれ、同地在住。2020年沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科修士課程絵画専攻修了。自身の家族史の収集や子供時代の記憶の再現を糸口に、沖縄のイメージの再構築を行う。2023年まで西永伶央菜名義で活動。主な展示に、2023年「沖縄画ー8人の美術家による、現代沖縄の美術の諸相」(沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館／沖縄)、やんばるアートフェスティバル「ある人物」(塩屋小学校／沖縄)、「Homemaking#2 あたえられた土地と土」(武蔵野プレイスギャラリー／東京)、2022年「沖縄人」(galleryrougheryet／沖縄)など



《ハロウィーンの子供たち》2019 ©Artstropical